

ギニアグラス新品種「ナツユタカ」

誌名	農業技術
ISSN	03888479
著者	佐藤, 博保
巻/号	43巻12号
掲載ページ	p. 564-564
発行年月	1988年12月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



ギニアグラス新品種「ナツユタカ」

佐藤博保

登録番号：ギニアグラス農林2号
系統名：九州5号(昭和63年命名)

特性の概要 1980年から個体選抜と系統選抜により、沖縄等南西諸島の永年草地に向く有望な多年利用の品種「ナツユタカ」を育成した。主要特性は次の通りである。

生殖様式は完全な単為生殖で、系統内の遺伝的変異はない。中晩生に属し、5月上旬に播種すると8月下旬に出穂する。ガットン、ナツカゼ、グリーンパニックより3週間以上遅くなる。草型は開張型で、草丈は高く、出穂時には2mに達する。葉は長く細い。葉身基部にわずかに毛がある。葉部割合は高い。初期生育はガットン、グリーンパニックと同程度でナツカゼより劣る。しかし以後の伸長はナツカゼとほぼ同程度になる。刈取後の伸長は速やかである。収量は永年にわたり多収で安定している。沖縄での3年及び6年間にわたる多年利用による収量はグリーンパニックよりそれぞれ5割、3割、ガットンに対しては2割及び1割多収であった。また永続性に優れ、裸地になる割合が少ない。単年利用の収量はグリーンパニックより多いが、ナツカゼより劣る。pH 4.3~7.1の広い範囲の土壤条件で生育に大差がなく、また沖縄各地の土壤条件にも良好な生育を示し、広い適応性を持つ。栄養成分はガットン、グリーンパニックと差が少ない。乾物消化率はやや劣るが、可消化乾物収量は多い。種子生産は10a当り20kg以上が期待できる。

適応地域と栽培上の注意 沖縄県および鹿児島県の離島等無霜地帯の南西諸島で採草用として導入する。また、放牧にも利用できる。特にローズグラスより耐旱性に優るので、夏期早ばつになりやすい沖縄県の八重山等

の草地導入に好適する。採種種子は冬眠があるので、播種に際しては30℃で1カ月以上の恒温処理等の休眠覚醒を行った種子、または1年以上経過した種子を使うことが望ましい。初期生育がやや遅く、雑草害をうけることがあるので、事前の除草には注意を払う必要がある。

育成後記 当研究室では先に暖地の耕地における夏作1年利用として同じギニアグラスのナツカゼを育成した。今回は永続的に利用できる品種育成に中心を置き、無霜地帯の沖縄等の南西諸島の永年草地に適する系統の育成に心掛けた。沖縄では夏期早ばつが著しく、ローズグラスの生育が極度に悪くなり、生産量が低下することから、これに代る耐旱性に優れたギニアグラス品種の導入が適当していると判断し、多くの系統の中から長年にわたり草地が良好に保たれる系統として「ナツユタカ」が選定されたものである。これらの検定には沖縄県畜産試験場が2検定圃場、夏期早ばつの特に著しい八重山では熱帯農業研究センター沖縄支所(石垣島)が圃場を設置し、これらの協力のもとに「ナツユタカ」の開発がなされたとげられた。

「ナツユタカ」は永続性があり、安定した生産量を確保でき、裸地率も低く、良好な草地を維持できるものである。また、ナツカゼと同様に線虫抑制にも効果があるので、沖縄県ではこの品種の導入、普及には多くの期待をかけている。ただ、本試験の範囲では放牧による調査が不充分であり、今後この面からの調査が期待されている。更に本品種以外にも再生が良く、放牧に適していると考えられる系統も保有しており、近い将来放牧による品種選定の結論を出したいと考えている。

なお、「ナツユタカ」の育種家種子を九州農業試験場で生産、原原種生産を昭和63年に長野種畜牧場で行っており、64年には原種生産を熊本種畜牧場で行う予定にしている。本品種はほぼ完全に単為生殖をするので、採種を重ねても品種内の遺伝的変異はなく、農家においても採種が可能である。

育成従事者：佐藤博保・清水矩宏・中川仁・中島卓介

(九州農業試験場牧草育種法研究室長)

ギニアグラス「ナツユタカ」の特性

品 種	出穂日 月 日	稈長 cm	葉長 cm	葉幅 mm	耐旱性	粗蛋白質 %	乾物収量 (kg/a)	
							3カ年*	6カ年**
ナツユタカ	8.19	194	67	2.1	1.5	8.6	1,117	1,984
ガットン	7.26	141	47	1.8	3.3	9.9	932	1,776
ナツカゼ	7.24	197	57	3.0	4.2	9.5	639	1,525
グリーンパニック	7.19	136	45	1.6	3.2	9.4	726	1,561

注) 耐旱性は1(強), 5(弱)。

粗蛋白質は石垣島試験地における利用2年目(昭61)の3刈取の平均。

乾物収量の*印は具志頭(沖縄支所), 今帰仁(沖縄中部), 石垣の3カ所平均。

**印は今帰仁の調査。

Hiroyasu SATO: A New Guineagrass Cultivar "Natsuyutaka". 農業技術 43 (12), 1988.